

2014. 3.30

日本基督教団 阿佐ヶ谷教会 図書委員会

☆☆図書室だより☆☆ ☆第14号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



2013年 11月(後期)～2014年 3月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名(購入書)	著者名など	出版社	分類シール
道しるべ	ダグ・ハマーショルド 著 鵜飼信成 訳	みすず書房	[黒 289.3 Ha]
水平から垂直へ 今を生きるわたしたちと聖書	船本弘毅 著	教文館	[橙 193.04 Fu]
書名(ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
新生の福音 ローマ書講解説教 上	大宮溥 著	教文館	[緑 198.34 Oh 1]
救いの歴史と信仰の倫理 ローマ書講解説教 下	大宮溥 著	教文館	[緑 198.34 Oh 2]
キリストン黒田官兵衛 上巻	雜賀信行 著	雜賀編集工房	[黒 289.1 Sa 1]
わたしたちはひとりではありません "We are not alone" Fraser Valley だより	大下幸恵 編著	燐葉出版社	[茶 198.32 Oh]

おすすめ本のご紹介…

船本弘毅 先生より

『道しるべ』 ダグ・ハマーショルド 著 鵜飼信成 訳 みすず書房 1967年

1953年に国連事務総長に就任し、1961年9月紛争解決のためコンゴに向かう途上飛行機事故のために生涯を終えたダグ・ハマーショルドという人がいます。世界の最も激職と言える立場にありながら、彼は秘められた心の日記を折りに触れて書き綴っていました。人に読まれることを全く意識せず、自身「私の私自身との、そしてまた神とのかかわり合いに関するいわば、白書のようなもの」と呼んだこの文章は、世界中の人々に深い感動を与えました。

「おまえは、おまえのなりうる者になっているのか、それとも——他の人たちと同様に——おまえのなりうる者になっていないか、いずれかなのだ」と、自らにそして私たちに問いかけることばは、40年余の時を越えて、今この時代に生きるすべての者に深く、静かに迫ってくるものがあります。

.....《今年度活動より》.....

選書方針 (どのような図書をそろえるかの方針) …絶えず検討しておりますが、今年度も新たに確認し合いました

[分類別優先順位]	1 阿佐ヶ谷教会関係者著述	2 プロテスタント関連
3 キリスト教全般	4 キリスト教各教派	5 その他

利用傾向調査 …貸出数の累計を調べました (2013.10.13 現在)

〈部会別〉 1. 信友会 2. 地の塩会 3. シオン会 4. 若草会 5. 共励会 6. ときわ木会 …

〈分類別〉 1. 聖書注解関連書 2. プロテスタント関連 3. 信仰録・説教集 …

… (おすすめ本のご紹介) …

『主の祈り　主イエスと共に歩む旅』

平野克己 著　日本キリスト教団出版局(2005年)

元当教会の担任教師であった著者が、雑誌「信徒の友」に過去1年間に渡って連載されたもの(2004年4月号～2005年3月号)を1冊にまとめたこの本。12単元に分かれています、主の祈りの解説が1フレーズずつ丁寧になされている。単元毎にまとまっており、短い時間で読み切れる分量である。しかし、読めば読むほど著者の世界観に引き込まれていき、祈り慣れた主の祈りの新しい一面に直面するだろう。

また各章の終わりには「話し合いのために」という読者への問いかけがなされている。グループで読み進めるこどもでき、親しみやすいものとなっている。

本文に「わたしたちもまた、復活の主とともにわたしたちの小さな十字架を負う旅を続けます。主の祈りを祈りながら！」とあるのだが、教会の暦で受難節を過ごしている私たちだからこそ、いまこそ主イエスの御苦しみを覚えて一緒に旅をしませんか。(I.H)

… (教会員の感想文より) …

『わたしたちはひとりではありません “We are not alone”

Fraser Valleyだより』　大下幸恵 編著　燐葉出版社

もと阿佐ヶ谷教会教育主事の著者が、現在千葉県東金市より発信されている「はなだより東金から NO.103」というお便りを、教会員の方からみせてもらいました。外房に咲くの花々と、震災の痛みを思う放射線汚染物の山の写真が3月の思いを告げていました。そのお便りの前身である「Fraser Valley だより」という、カナダ西海岸バンクーバーの東フレイザーヴィアレーにあるカナダ日本人合同教会から発信されていたお便りを冊子にされたものがこの本書です。カナダの想像し難い大きな季節の移りわりと神様のお恵みに感謝して歩む教会の人たちの様子に触れてウキウキします。(RI)

『救いの歴史と信仰の倫理 ローマ書講解説教 下』

大宮溥 著　教文館

先生の語る姿が記憶にあるからか、単元の量が読みやすいからか、一つ一つ読むことが日課になって励されます。講解説教集は順が揃っているのが特徴ですが、イースターの朝が待ち遠しく、目次から先に「朝は近い」を選んでしました。

「イエスキリストという太陽が死から復活して…夜の闇は残っていても、…「神の国」が完成することを確信し、希望をもって生きる…」(本文より) ことができるよう受難週の学びとしました。聖書の次くらいに繰り返し読む本のように思います。(RI)

★★ 今年度も本誌を支えてくださりありがとうございました。皆さまの信仰生活にお供出来るような図書室作りを目指して、絶えず祈り工夫していきたいと思います。4月からもよろしくお願ひいたします。(図書委員会一同)